

交換留学帰国報告書

記入 | 2024 年 9 月
所属 & 学年 | 経済学部 3 年
卒業予定 | 2026 年 4 月

留学先大学	ジュネーヴ大学
留学先国	スイス
留学期間	約 10 ヶ月 (3 年次に留学)
留学開始 - 終了	2023 年 9 月 12 日 - 2024 年 7 月 8 日

A. 留学に至った経緯や留学準備について

- ① 留学する大学や国、プログラムを決めた理由を教えてください。

ジュネーヴは国際機関や多国籍企業の本部の集う街であることから、国際色の強いイメージがあり、それが魅力的だと思ったのが最初の理由である。調べていくと Global Studies Institute という学部があり、国際経済学や国際機関に関連した勉強ができることができると知り、徐々にその分野への関心を持つようになったから。
また公用語はフランス語であるが、授業は英語でも開講されていたため、専門分野の学習は英語、また自身の第二外国語でもあるフランス語は現地の語学学校（無料で開放されている）で学ぶことができるメリットがあったから。

- ② 留学を志したきっかけや経緯、動機などについて教えてください。

長期の留学は高校時代から憧れがあった。入学時はコロナ禍で留学を諦めることもあったが、G30 や英語開講の名大の授業を履修し、そこで出会った交換留学生や留学を経験された先輩方との関わりから、自身の学問の専門性や語学力を高めたい気持ちが強くなり、志望に至った。

- ③ 留学前の海外渡航経験があれば教えてください。

渡航先	渡航時の学年	目的 & 期間など
シドニー・オーストラリア	高校 1 年次	ホームステイ・現地学校での学習/ 約 1 ヶ月

- ④ 実際に留学準備を始めたのは応募した時期からどのぐらい前でしたか？

大学 2 年の 10 月頃

- ⑤ 海外留学室での相談内容、参考になったことなどを教えてください。

留学準備は、基本的に自分で進めていくものであるということを勘違いしてはならないと思います。留学前にはビザや寮の申請、現地大学とメールのやり取りがあると思いますが、基本的にはご自身で計画をして進めていかなければなりません。その上で、海外留学室の先生方は、プロセスの中で困ったことがあった際、万が一がない限り、その問題を解決していくための選択肢を示してくれる存在だったと思います。それ自体のトラブルシューティングはそれぞれの学生が行っていくことが期待されています。

B. 留学前の語学対策や単位などについて

- ①留学前の語学対策、TOEFL などの受験回数などについて教えてください。

IELTS を一度受検しました。

また名大の留学生との授業内外での関わりが多くあったため、言語に慣れるといった面で非常に役に立ちました。

- ②単位取得、単位互換、教職履修などに関するアドバイスをお願いします。

単位互換は基本的には不可能だと言われました。

また3年次での留学（二学期間）では卒業を1年遅らせる学生が大半であるということ。

C. 授業や勉強について

- ①留学先で履修した科目と科目コード（例：MKG 2022 Introduction to Marketing）、時間数、形態、授業の内容、履修方法、などについて教えてください。

[経済経営系] 3 ECTS=2h/week・6 ECTS=4h/week

S240012CR The Fourth Industrial Revolution:3 ECTS

第四次産業革命とも言われる現代の技術革新について。最終週のプレゼンと期末試験での評価。レクチャーがベースだが、近くの席の学生とのディスカッションの時間も多く取られていた。

S201030CR Fundamentals of Strategy:3 ECTS

企業を主体とした経営環境・経営戦略の基礎を学ぶ講義。期末試験のみの評価。経営学のスタートとなるキーワードが多く出てくるため、いかに言葉を理解して覚えられているかが求められているように感じた。

S201050CR Marketing Management:6 ECTS

週2回（2h×2）の授業。マーケティングの基礎講義で週ごとにテーマがある。学期中の2回のテストと学期を通したオンライン課題（DataCamp）での評価。一貫して大講義室でのレクチャー形式であった。

J2P201 International Political Economy:6 ECTS

週1回(2h)の授業と3週間に1回のDiscussion partで構成される。国際経済の枠組み、国際貿易・国際通貨システムを政治的な側面から分析・批評する。期末試験のみでの評価。

S230005CR International Management:6 ECTS

週1回（4h×1）の授業。毎授業、講義・ケーススタディ・ゲストスピーカーの3つの構成で、レクチャーだけでなく、毎週さまざまな業界からのゲストを招いてマネジメントの重要概念がどのように実際に活用されているのかも学んだ。学期中の2回のテストと、グループワークを通したレポート・動画課題での評価。

S210005CR International Macroeconomics:6 ECTS

週2回（2h×2）の授業。国際マクロ経済学の重要概念を広く学んだ。教授の知り合い（元同僚）のエコノミストの方からの講演もあった。理論と現実の一致・不一致を検討するスライドが多く用意されていて、常に現実で起こっていることに対してアンテナを高く持つことへの大切さを学んだ。期末試験のみでの評価。

S202039CR Development Economics:6 ECTS

週2回(2h×2)の授業。週ごとに異なる、開発経済学のトピックに対して統計学の手法を用いて説明していく。学期中には2回の筆記テストがあり、学んだことを自らが詳しく正確に説明していくことが求められた。またグループワークもあり、そこでは回帰分析等の統計学の分析手法を用いて、着目した貧困等の開発経済学が扱う課題における、現状や関係性などを明らかにしていくことが求められた。授業内での発表もあった。

J2E212 Economic Analysis in International Organization:3 ECTS

SDGs・MDGsで取り上げられる内容に対して経済学的な視点から過去・現状を分析して、今後の予測や必要となる取り組みを検証する。国際機関でよく取り上げられる重要概念が多く登場した印象。期末試験での評価。

[フランス語] 授業は全てフランス語。先生だけでなく学生である私たちも授業内はフランス語で会話・発言をした。評価方法はいずれの授業もほとんど共通していて、出席・課題の提出(プレゼンがある場合はプレゼン評価)・学期内の2回のテストで評価された。

Cours élémentaire A2 (1)

A2レベルの4技能をバランスよく学んだ。説明と問題演習のサイクルで展開される。発言の機会も多かった。体感的にはA2レベル以上の難易度の単元もあった印象。

Cours La Suisse et le monde francophone A2

スイス・フランス語圏の文化・歴史や、各地域の方言のようなフランス語の言葉の違いなどを学んだ。フランス語圏の広さと文化の面白さが感じられる授業。またスイスの歴史を学ぶ機会はこれまでなかったので非常に興味深かった。

Cours intermédiaire I B1 (2)

B1レベルの4技能をバランスよく学んだ。A2に比べて扱う文量や単語・文法の難易度は大きく上がった。また授業内での学生とのディスカッションの時間が多く取られた。またグループでのプレゼン発表もあった。

Grammaire B1

B1レベルの文法の講義。時制や代名詞などがメインだった。文法に特化した授業であったので細かい部分に触れることも少なくなかった。

②授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫を教えてください。

基本的に毎授業に参加し、その後の復習も忘れずに行った。大学では周りの学生も含め、講義が終われば図書館で勉強するといった過ごし方が多かったので、友達と同じデスクで勉強することでモチベーションの維持を図った。また経済の専門書は英語のまま、フランス語の語学学習は英語を使って勉強することで、両言語になるべく多く触れることを意識した。

③学習面で困ったことはありましたか。どのように解決しましたか。

次の授業までに読まなければならない論文をいかに読み切るか、毎授業200ページ程のスライドを用意してくれる教授もおり、それらのスライドをいかに効率よく復習していくかなど、求められていることに応えることやスピード感についていくことが大変でした。それらに日々向き合っていくことで、少しずつパターンを掴んでいくことや、メモの仕方を工夫して復習のしやすいように調整していくことで少しずつできることが増えていったように思います。

D. 大学生活について教えてください。

①現地の雰囲気や大学の校風について教えてください。

渡航前から国際色が豊かなイメージがあったが、自分の想像以上でした。さまざまな国から学生が集い、大学を歩けば（街中も同様）さまざまな言語が聞こえてきます。文化や思想の違いに寛容で、3カ国語以上話せる学生も多かったです。

国際機関が近いこともあり、世界で起こっている紛争や気候変動に対して、個人が考えを持ち、行動していく学生が多かった印象です。滞在時はロシアのウクライナ侵攻やパレスチナ・ガザ紛争があり、大学内でのボイコットやデモなどが日々を通して行われていました。

大学は自由闊達な雰囲気、特に学生主体のアソシエーションは活発にさまざまなイベントを大学内外で開いていました。サステナビリティをテーマとしたアイディアソンであったり、ビジネスシーンでのピッチのスキルを磨くためのイベントであったりと、彼らに共通する勤勉性が見受けられるシーンが多かったです。

②ネット環境、施設、周辺環境などハード面について教えてください。

大学・寮内いずれもネット環境で困ることはほとんどなかった。

施設に関しては、市内中心にキャンパスが点在していて、いずれもとても綺麗でアクセスもよく非常に勉強に集中しやすい環境だったと思います。

③留学先でどのようにして現地の学生と交流を深めましたか。

特徴的だったのは、タンデムという、2人1ペアとなってお互いがお互いの言語を教え合う文化が学内で盛んであったことで、私自身は4人のタンデムのバディを組んでいました。週に1回お互いの空きコマに会って言語の練習するのは現地学生との交流を深めることにも繋がりました。

またさまざまな学生団体がイベントを開催していたので、時間のある時は積極的に参加するようにしていました。

④余暇の過ごし方（授業後や長期休暇など）について教えてください。

授業後は基本的にタンデムや授業の復習をしていました。また、週に1回を目安に大学が無料で開催してくれているスポーツ（バレーやバドミントンなどさまざま）に参加して適度に体を動かすことも意識していました。私自身を含め、寮に住む学生は毎日自炊をしていたので、授業後は彼らと一緒にスーパーに買い出しへ行ったり、寮の共用のキッチンで一緒に晩御飯を作ったりもしました。

長期休暇はレマン湖のあたりまで散歩したり、ピクニックをしたりと外に出てアクティブに過ごすことを意識していました。またスイスはヨーロッパの中央に位置していて、空港やバス停にも近いので国内や近隣国への旅行もしていました。

E. 健康管理、保険、予防接種など

①健康管理あるいは衛生面について注意していたことはありますか。

スイスは医療費が高いので健康管理はいつも以上に気をつけていました。特に冬は乾燥するので、風邪のひきはじめなどはすぐに薬を飲んで早く寝るなど、症状が悪くなる前にできる対策は尽くしました。

衛生面に関しては、スイスにおいては大きく日本と変わる点はないと思います。むしろ水道水は硬水ではありますが、日本以上に美味しく飲むことができます。（現地の人も水道水を汲んで飲む人が多い）一方で他の国への旅行の際は水道水をむやみに飲んだりせず、

衛生面に気をつけて過ごしていました。

- ②留学中に病院へ通った経験の有無、医療費などについて教えてください。

無し

- ③留学するにあたって、予防接種は必要でしたか。

はい（種類：）

いいえ

F.住居、食事、マナーなどについて

- ①留学中の滞在先について教えてください。

形態	<input checked="" type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> 下宿 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他（ ）
何人部屋	（ 1 ）人

- ②生活（住居、食生活、服装など）や習慣の違い（マナー、対人関係）、安全面などについて、困ったこと、気をつけていたことがあれば教えてください。

寮に住んでいたため、同じフロアに住む学生とお互いが気持ちよく過ごしていけるように、プライベートの時間や空間を尊重する心構えを忘れないようにしました。自分の寮は共用となる設備（キッチンやシャワーなど）が多かったため、使用後の片付けは必ずその日のうちにしていました。

- ③日本から持参するとよいもの、または持参しなくてもよかったと思うものは何でしょうか。

持参すると良いもの：日本の調味料（日本食はいずれ必ず恋しくなります）・延長コード・変換プラグ（予備も買って置く）・箸・スーツ（フォーマルな場面で必要となるので持っていくと安心）・南京錠（旅行時の貴重品の管理に役立ちます）・サンダル（浴室まで行く時や寮で過ごす時にないと困る）・サングラス・薬・パスタやお米がレンジで作れる容器

- ④参考となる留学先国の情報（出版物、web サイト）を教えてください。

<https://www.unige.ch/exchange/en/incoming/why-geneva/students/international-non-erasmus-students/>

ジュネーヴ大学の交換留学生向けのページです。学内外で必要となる手続きの概要が示されています。また困った時にはこのページにも載っている担当の先生に直接コンタクトを取ってみるのもいいと思います。返信も早く丁寧に相談に乗ってくれます。

G.留学費用について

- ①留学費用や支出の管理などに関してアドバイスがあれば教えてください。

スイスは物価が高い。食費が外食をすると嵩むので自炊をして節約をしていました。La FARCE という学生団体は週に 1 回無料で食材を配ってくれます。登録が必要ですが、留学生のほとんどは利用していて、学生にやさしい団体なのでおすすめです。

- ②奨学金は受給していましたか。

はい（奨学金名： 支給額： 円）

いいえ

③差し支えない範囲で留学費用を教えてください。*内容の費目は自由に変えてください。

内容	金額	備考
渡航費	200,000 円	
保険代	100,000 円	
予防接種・ビザ代	15,000 円	長期滞在許可証発行手数料
住居費	95,000 円/月	
食費	45,000 円/月	
教科書代	0 円	授業で使用するものは全てオンラインで配布

H.今後の進路や目標、就職活動について

①卒業後の進路（進学、就職、その他）について教えてください。

- 進学
就職
その他（ ）

②今後の進路や目標があれば教えてください。また留学の前後で、進路や目標に対しての考え方や気持ちの変化があれば教えてください。

留学前後で自分自身の視野が広くなり、自身を客観する視点が生まれたように感じます。現地で出会うことのできた学生の勤勉さ、将来への視野の広さに大きく刺激を受けたからです。自分の可能性を信じて目の前に打ち込むことの大切さを改めて実感しました。留学を通して得た学びや打ち込んだことを留学後も継続していくことが今の目標です。就職はその道に続くものだと思っています。また就職の軸の一つにグローバルに働きたいという思いもあります。将来自分が留学先で出会った友人とビジネスのシーンでも再開できたりしたら嬉しいなと思います。

③留学中に就職活動を行った方は、具体的なエントリー、一時帰国の時期、感想などを教えてください。海外留学生用の就職活動を受けた場合はそれに関する情報もお願いします。

ヨーロッパに留学する方は、ロンドンキャリアフォーラムという言葉を目にするでしょう。留学生向けの就職イベントですが、メインは現地の日英バイリンガルの正規学生を対象としているイメージです。参加資格はありますが、実際に参加される際には、イベント前からエントリーやESの提出等が必須となる場合もあるので、入念な準備が必要です。

I.留学を終えて感じること

①留学を終えて今の率直な気持ちや感想、印象に残っていることなど教えてください。

この留学を通して、世界や自分のことを知り、深く考えるきっかけを得ることができたと思います。非常に充実した時間を過ごすことができたことに感謝しかありません。いま手元には留学のできるようになったこと、もっと頑張りたいことがあります。留学はゴールではないので、得た気づきや学びをこれからの日々の勉強や就職活動に活かしていきたいです。また近い将来、必ずジュネーブに戻りたいと強く思っています。

②留学したことで、何がどのように変わったと思いますか。

海外に住むことの具体的なイメージを持つことができたので、卒業後は海外駐在にもチャレンジしてみたいと思うようになった。この留学を通じて、新しいことに興味を持って飛び込む力、高い視座を持って継続していくことの大切さを痛感し、自身もさまざまな経験、トラブルを通じて、冷静な対応力を磨くことができたと思う。
 総括して、自分の将来の視野がグローバルに広がり、自分自身のレベルアップの必要性を

強く感じたことが、留学前後の最も大きな変化だと思う。

③現在、留学を考えている学生へのメッセージをお願いします。

今後の皆さんの留学にもきっと、沢山の方々との出会いや経験が待っていると思います。留学は準備の時からわからないことも多く、手探りでやっていくこともあるかと思いますが、それも含めて大事な経験になると思います。自分を信じて飛び込んでみましょう。皆さんの留学が充実したものとなることを願っております。

◆自由記述欄◆

- ① ジュネーブの大噴水：ここでよく散歩やピクニックをしました
- ② ジュネーブの旧市街：伝統的な建物は非常に趣があります
- ③ 寮の自分の部屋からの景色：絶景でした。季節ごとに景色が変わるのでよく写真を撮っていました。
- ④ スイスの旅先での写真：壮大な自然の中での一枚。
- ⑤ 大学内の Global Village というイベント：ブースごとに様々な国の食べ物が並び、中央では写真のように文化的なダンスが披露される。様々な文化を持つ学生が集うからこそできるイベントだった。自分は日本のブースを担当して、前日に友人と 100 個近くのおにぎりを準備しました。
- ⑥ ジュネーブのクリスマスマーケット：ヨーロッパ各地でクリスマスマーケットがあります。冬のヨーロッパの醍醐味の一つです。マーケットごとに異なるマグカップをコレクションしている友人もいました。
- ⑦ ツェルマツトから見えるマッターホルン：スイスの自然は本当に圧倒的です。
- ⑧ ジュネーブの Victoria Hall というコンサート会場：荘厳な建物の中でのクラシック音楽鑑賞



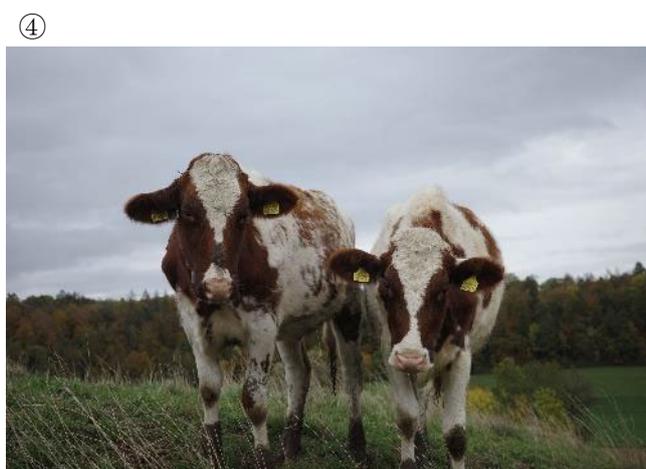
①



③



②



④

⑤



⑥



⑦



⑧

